

公園緑地ストック活用基礎調査委託その3の報告について

まちづくり環境委員会
令和2年7月15日
都市基盤整備部 資料2番
所管 都市基盤管理課

委託概要と目的

区立の公園緑地のうち、約6割以上が1,000㎡にも満たない小規模な公園であるとともに、近年の区民のライフスタイルの変化や、公園利用や公園に対するニーズの多様化の流れの中で様々な課題を抱えており、公園のあり方が問われている。
区では、今後の公園のあり方を探るために、平成28～30年度に公園利用に関わる実態調査やアンケート調査、そして公園のさらなる利活用に向けた基礎調査を実施した。
本委託では、これまでの調査結果で具体的な提案のあった「健康増進」と「子育て支援」の視点での既存公園の利活用推進について、「いきいき健康公園づくり」として区内2地区（鶉の木地区と久が原・仲池上地区）、「子育てひろば公園づくり」として大森駅周辺に位置する「入新井公園」を対象として、具体的な整備方針や整備計画案の検討を行った。

いきいき健康公園づくり

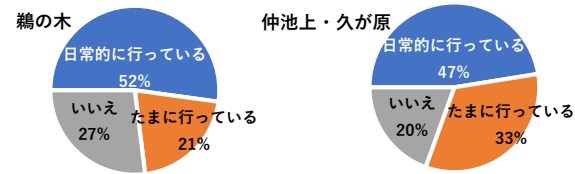
①いきいき健康公園づくりの整備方針

- ▶整備方針1 小規模公園や広場を**一体的に連携する健康運動ネットワーク**の形成
- ▶整備方針2 ウォーキング・体操等の活動をきっかけとした**多世代の交流空間の創出**
- ▶整備方針3 **周辺施設等の魅力**を活かしたコースとなるよう検討を行う。
またウォーキングコースを考慮した**休息施設の設置**を検討する

②ニーズの把握

調査対象2地区で、健康運動ネットワークづくりに関する公園利用者へのヒアリング調査を実施した。（実施日：令和元年11月4・5日、鶉の木地区：115件、仲池上・久が原地区118件）

Qウォーキングを行っているか



▶回答者の7割強がウォーキングを行っている
⇒現状でウォーキングへの親しみが深いことがわかった

③健康運動ネットワークの設定方針

◆ウォーキングコースの設定基準

- 1) ルート設定の配慮事項
 - ▶公園や広場を**定期的に通過**でき、休憩や**健康遊具、トイレ**の利用ができるように設定
 - ▶**歩行者専用道路や歩道**がある道路を優先して設定
 - ▶起点を自由に設定できる**周回ルート**とする
 - ▶車道を横断する場合は、**信号のある場所や横断歩道**を優先して設定
 - ▶**公道**にて設定し、私道は避ける
- 2) コースの設定基準
 - ▶**初級コース**：1 km前後のコース
 - ▶**中級コース**：2 km前後で、筋力トレーニングが可能なコース
 - ▶**上級コース**：3 km前後で、筋力トレーニングが可能なコース

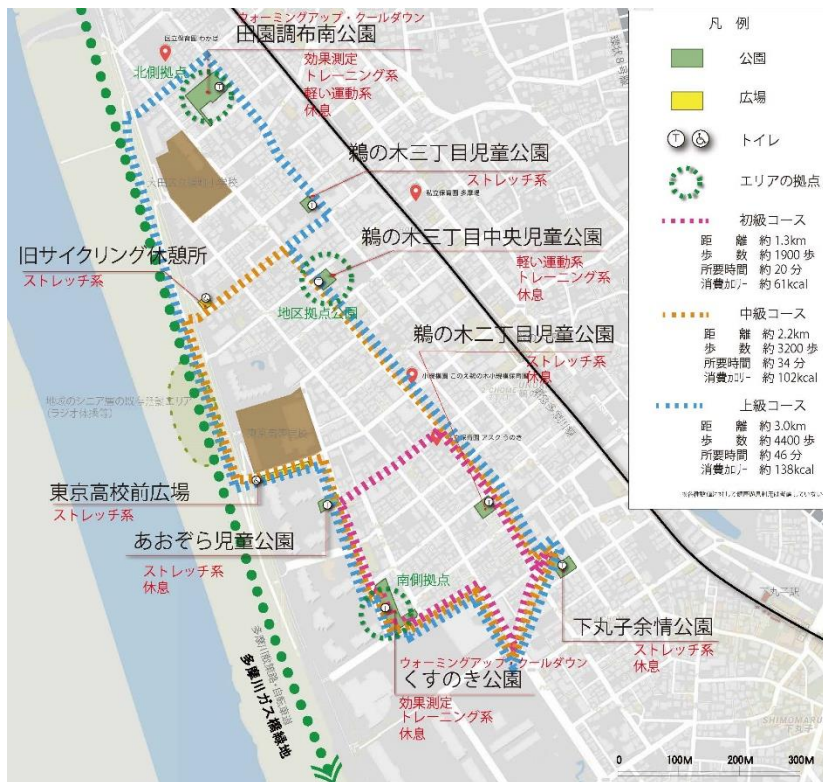
◆ウォーキングコースに設定した公園一覧

コース	No.	公園名	区間距離			健康遊具設置数 (予定)	主な施設			
			初級コース	中級コース	上級コース		トイレ	水飲み	パーゴラ等	
鶉の木地区	起点	1	くすのき公園	0	0	0	3~4	○	○	○
	-	2	あおぞら児童公園	180	180	180	1~2	○	○	
		3	東京高校前広場	-	200	200	1~2	○		
		4	旧サイクリング休憩所	-	320	320	1~2	○		
		5	田園調布南公園	-	-	580	3~4	○	○	○
		6	鶉の木三丁目児童公園	-	-	280	1~2	○	○	
		7	鶉の木三丁目中央児童公園	-	260	200	1~2	○	○	○
		8	鶉の木二丁目児童公園	360	460	460	1~2	○	○	○
		9	下丸子余情公園	230	230	230	1~2	○	○	○
		終点	1	くすのき公園	550	550	550	3~4	○	○
仲池上・久が原地区	起点	1	久が原久根児童公園	0	0	0	3~4	○	○	○
	-	2	仲池児童公園	350	350	350	1~2	○	○	○
		3	仲池上二丁目29番広場	-	270	270	1~2		○	
		4	仲池上二丁目30番広場	-	170	170	3~4		○	
		5	けやき広場	-	420	420	1~2		○	○
		6	公園予定地	170	170	170	1~2		未整備	
		7	久が原二丁目広場	70	70	70	1~2	○	○	○
		終点	1	久が原久根児童公園	200	200	200	3~4	○	○

※コースの起点終点には効果測定遊具を配置する

④整備計画案 ◆ウォーキングコースの設定

鶉の木地区



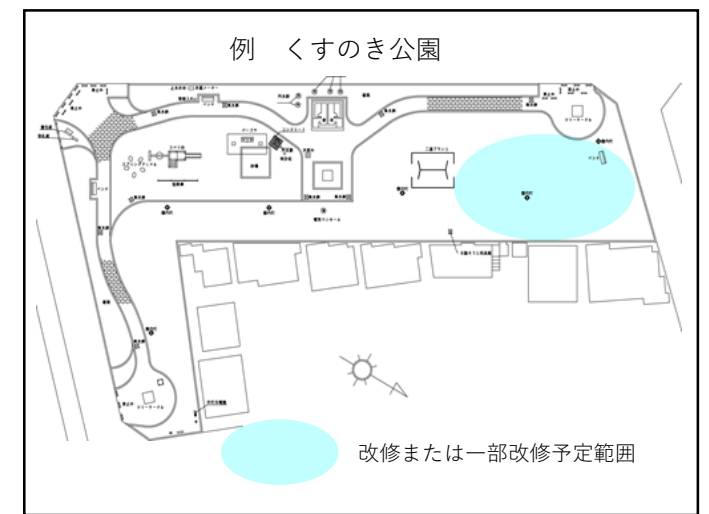
仲池上・久が原地区



※歩数、所用時間、消費カロリー：東京都福祉保健局「TOKYO WALKING MAP」における「時速4km、ウォーキング10分=30kcal、1歩=70cm、体重60kg」を用いて算出

◆整備計画案 (イメージ)

<例> くすのき公園 (下丸子四丁目24番1号)
・北西部エリアを一部改修、健康遊具を3~4基設置する



健康遊具イメージ



子育てひろば公園づくり

①子育てひろば公園づくりの整備方針

整備方針1 子育て支援空間の拡大と機能拡充

- ・ 幼児向け遊具や児童向け遊具を設置した子育て支援遊具施設の整備
- ・ 保育所代替遊技場としての機能拡充

整備方針2 多世代の交流空間の創出

- ・ 遊具だけに頼らない「遊び」やイベント等を開催する空間の設置
- ・ 多世代の利用者が交流できる空間の創出

整備方針3 公園整備とオープンスペースの確保

- ・ 公園不足地域における憩いや団らんの場として整備

→本年度は子育て広場公園づくりの対象として、子育て支援を行う駅周辺の小規模公園のうち代替遊技場の指定数が多い**入新井公園**について検討を行った。

②入新井公園の概要

◆概要

入新井公園は、戦災復興土地区画整理事業によって作られた公園で、大森駅南東側約300mに位置しており、周辺は商業・業務・公益施設等の集積エリアで事業所や集合住宅等に囲まれている。

▶所在地：大森北1-20-1 ▶面積：3,001.65㎡ ▶開設年月日：昭和25年10月10日

◆利用状況と課題

課題①乳幼児利用実態の少なさ

入新井公園は保育所の代替遊技場の指定数が区内で2番目に多い公園である。その一方で平成28年度に実施された公園実態調査において乳幼児の利用が把握できなかった。

→**代替遊技場としての需要は高いが、乳幼児用の公園として機能しておらず利用されていない可能性**がある。

課題②自転車駐車場の配置と拡張

入新井公園自転車駐車場は都市公園区域内に設置されており、公園利活用上の課題を抱えているが、大森駅周辺では自転車利用環境の整備が引き続き進められており、入新井公園周辺においても**駅利用者用自転車駐車場の整備拡充が望まれている**状況である。

③入新井公園整備方針案

子育てひろば公園づくりの整備方針をもとに、子育て支援機能の拡充と自転車利用環境の整備の必要性から、入新井公園の整備方針を以下のとおり定めた。

整備方針1 周辺市街地につながる**明るく開放的な公園**

整備方針2 立地条件を活かした多様な公園利用者のための**魅力向上**

整備方針3 **子育て支援機能の拡充**

整備方針4 **既設自転車駐車場の見直し**（再整備または移設）

④自転車駐車場の見直し（形式比較表）

◆自転車の形式検討

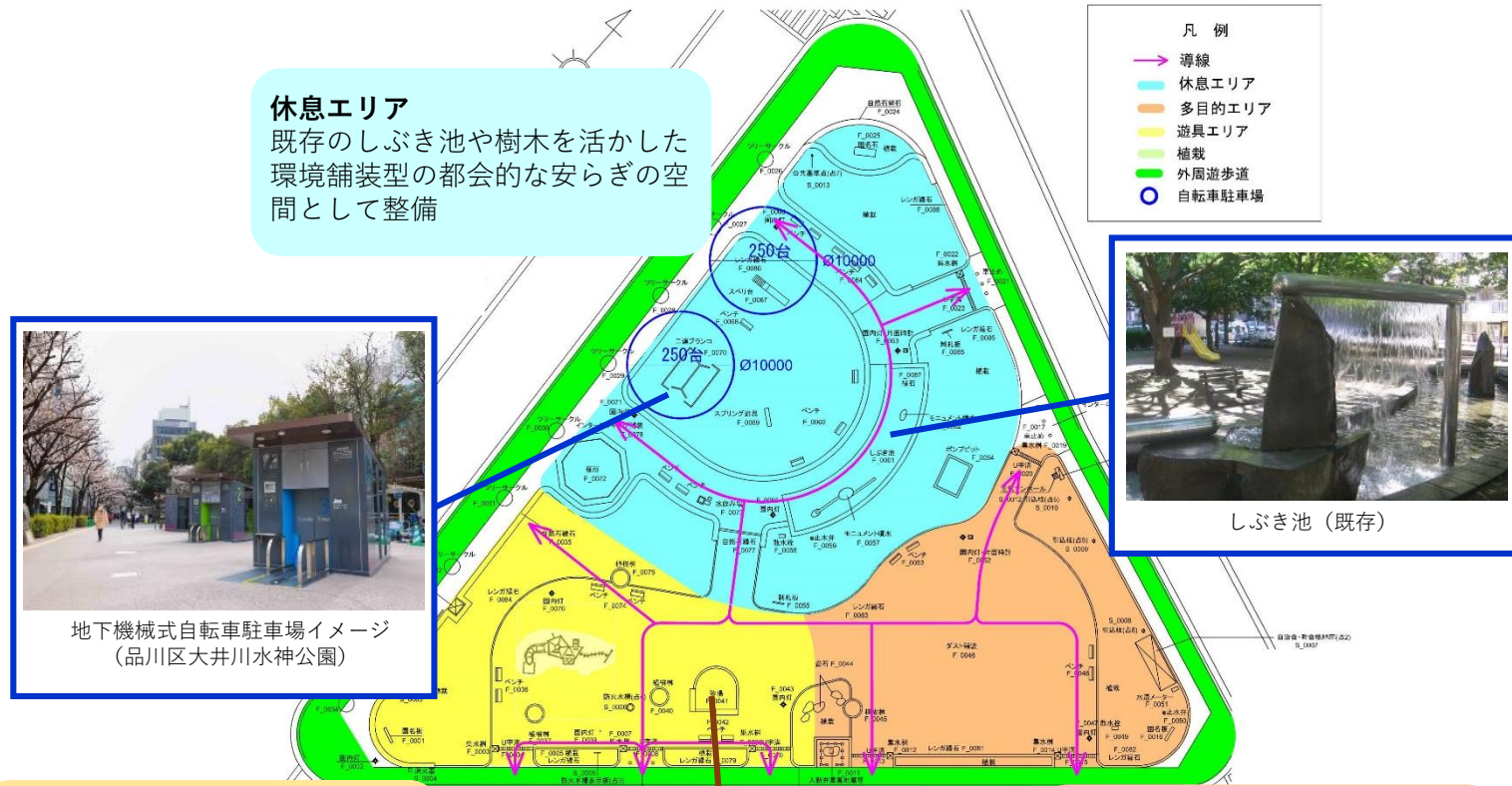
自転車駐車場の拡充整備を検討するにあたり、公園機能の維持・景観の保全を前提に、以下の項目について自転車駐車場の形式を比較する。

条件	外周歩道活用式 自転車駐車場	地下機械式 自転車駐車場	地下自走式 自転車駐車場
設置可能台数	70台~130台	500台	500台想定
公園施設・機能への影響	なし	ほとんどなし	あり
歩行空間への影響	あり	なし	なし
景観への影響	あり	なし	なし
費用	安価	高価	高価
駐車環境	悪い（屋外）	良い（屋内）	良い（屋内）
評価	○	○	△

→**地下機械式自転車駐車場の設置を主体に検討し、必要に応じて外周歩道活用式自転車駐車場の検討を行う。**

⑤まとめ

入新井公園改修整備方針に基づき、公園全体のゾーニングや動線の見直しの検討を行う。



休息エリア
既存のしづき池や樹木を活かした環境舗装型の都会的な安らぎの空間として整備



地下機械式自転車駐車場イメージ
(品川区大井川水神公園)



しづき池（既存）

遊具エリア

幅広い年齢層の子供たちがそれぞれ安心して利用できる遊具広場として整備



子育て支援機能イメージ

多目的エリア

多世代の交流や地域のにぎわいを生み出す多目的な広場空間として整備